
IS ホンモノノチカラ

仮面騎士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS ホンモノノチカラ

【Nコード】

N3789X

【作者名】

仮面騎士

【あらすじ】

主人公『天満克己』は神のミスでISの世界に転生をした。

「私は織斑一夏。よろしくね？」は？なんで一夏が女なの？
なんで一夏の幼馴染なの？

克己は叫ぶ、「不幸だああーっ！！」

これは何の因果なのかバランスが崩壊した世界で仮面ライダーの力を操り思うままに（じゃなくね？）生きていく元・青年の物語。

「俺は弱いさ。だからって相手なんかに媚びられねえんだよ！」

作者が何とかプロットを完成させたみたいです。

Gとの邂逅／転生／（前書き）

はじめまして仮面騎士です。遅くとも月一で更新します。
微妙なですがぜひ観てください。

Gとの邂逅と転生

目が覚めると俺は知らないところに居た。

そして、俺の目の前には土下座で謝罪をする痛々しい老人が居た…

「ホントすみませんでしたああ！！！」

「いきなり言われてもわからねええええっ！！！」

すると一人の美女と一人の美青年がやってきて…

「そこまでにしなさいハーデス。この坊やが絶叫してるでしょう？」

「すまないな、すぐに立たせよう。ほらハーデス、立つんだ。」

開いた口がふさがらないとはこういうことを言うのだろう。

「あの〜〜あなた方はどちらさまですか？」

「くくく・・・質問がおかしいぞ少年。私はゼウス。天界の神だ。」

「私はヘラ。ゼウスの妻よ。」

「わしはハーデス。冥界の神だ。」

まさかの神様ですか？

「坊やは死んだのよ。ハーデスの失敗だね。」

「へ？」

数分後・・・・・・

「つまり…俺は本来死ぬはずの人を助けて車に撥ねられた。しかし本来助かるはずがハーデスさんの失敗で死んでしまった・・・ということですか？」

「そういうことだ。少年。」

「本当にすまぬ！」

これ以上はハーデスさんが見苦しいのでハーデスさんの肩に手を置き、言う。

「ハーデスさんがわざとやっていないことは話を聴いていればわかります。ですから誤る必要も頭を下げる必要もありません。申し訳ないって気持ちだけがうれしいですから。」

「うつうつ…主…かたじけない…」

「ふうん。優しいじゃない。」

「罪を憎んで人を憎まず。たとえ殺されてもハーデスさんを責めるのはお門違いです。」

「くくく…少年はすばらしい人物だな。」

なぜかゼウスさんとヘラさんに感動された。

「それで・・・俺はどうなるんですか？」

「ああ、少年は転生するから。」
「・・・は？」

ヘラさんがゼウスさんを叩き、叱る。

「ゼウス、それじゃあ駄目じゃない。伝わらないわ。いい、坊や？
あなたは本来輪廻の輪に入るの。でも坊やは運命を変えた。さらに
その死は神の失態。だから坊やには別の世界で新しい生活をしてもら
うわ。」

ヘラさん、すげー丁寧。

「俺はこの世界で暮らすのですか？」

「主はISの世界で暮らしてもらう。」

「だから少年には自分のISを考えてもらう。」

ISなあ…

正直イメージがわからない。

まったく違うものだが俺は仮面ライダーが大好きだ。

龍騎、カブト、W、オーズなんだが…

龍騎はミラーワールドじゃないと真価が発揮できない。

カブトはとにかくチートすぎ。

Wは難しい。

オーズはメダルチェンジに隙がある。

どうしたものか・・・

そういえばWの映画にかっこいいライダー居たなあ。

あいつでいいかな。

チートすぎないし、でも強いし。

「仮面ライダーエターナルの映画Ver.をお願いします。」

「 よろしい。 ならばがんばるのだよ。 少年。 」

俺は新しい道を踏み出した。

主人公&もろもろ設定（前書き）

プロットを大幅に修正しすぎて更新できなくて…無念…

主人公&もろもろ設定

天満克己

もはやお約束の神様のミスで転生した主人公。

根っからのツツコミ体質&巻き込まれ体質。

喧嘩に関われば基本的にボコされ、他人の趣味に口を出そうものなら相手にトラウマを植え付けるまで命を狙われたりする。

前世での人間関係はかなり複雑で三人の幼馴染以外に友達はいなく、両親も幼くから他界している。

そのために仲間が傷つきようものなら敵を完膚なきまで、破壊する。

趣味はバイオリン、料理、読書。

料理は高級レストラン並みの出来。バイオリンに至ってはソロコンサートを開いても問題はない。

尊敬する人物は仮面ライダーカブトの天道総司。
偶に天道のセリフをパクツたりする。

女性からの好意にはほぼ無関心。

前世の幼馴染の一人に惹かれていた。

使用ISは仮面ライダーエターナルの姿と力のまんまの「エターナル」

そしてオーズのプティラコンボとタジャドルコンボの「オーティドル」

オーティドルに関しては神様のただの気まぐれ。

神様の多大なる気まぐれにより、身体能力MAX、危機察知MAX、そして超フラグ自動生成能力が備わった。

しかし超フラグ自動生成能力に関しては、本人も自覚していない。

愛想は悪いが基本的にイイ人なので超フラグ生成能力は多大な効力を発揮している。

転生後は幼馴染となった一夏を気遣い、支えようとする毎日に追われている。

過去に想い人のことを忘れようとして、がむしゃらに片っ端から喧嘩を吹っかけてめちゃくちゃに壊しまくっていた。

しかし、千冬の説教（まともな方）をうけ、一夏や鈴が悲しむことを知った以降は少しおとなしくなっただけらしい。

簪や姫無（現盾無）とは面識も思い出もあるらしい。

主人公&もろもろ設定（後書き）

これがプロフィールです。

もしかしたら増えます。

Kの始まり〜女難とフラグとES学園〜（前書き）

本編に入ります。

Kの始まり〜女難とフラグとIS学園〜

俺の名前は天満克己。

てんまんじゃない。あくまでもテンマだ。

俺は今どこにいるかわかるか？

女の園。またの名を兵器の教導学園。

すなわち……IS学園だ。

俺は今廊下にいる。

クラス？ 壱組だよ。原作の舞台の。

もう憂鬱だぜ。幼馴染があいつだし…信じられないこと起きてるし…
なにかって？ あれだよ。あ…………

「まだ紹介していない奴がいる。天満、入れ。」

おっと失礼。お呼びがかかったよ。

ガラガラとドアを開けて教室に入る。

教室は静まり返っている。

ちらっと中を見渡すと予想どおり（というより当たり前だが）女しかない。

その中に幼馴染が二人いた。

ポニーテールの仏頂面とショートカットの無邪気そうな顔。

片方は言わずもがな篠ノ乃箒。

もう一人はなんと、あの、織斑一夏だ。

びつくりだよ。なんで一夏は女なんだよ。
幼馴染でもつとびつくりだよ！

「天満、自己紹介をしろ。」

そういつてきたのは担任で織斑一夏の姉である織斑千冬。
何気に俺の理解者だったりする。

「ういつす。了解しました、千冬さん。」

「はあ……………ここでは織斑先生と呼べ。」

怒られた。しかし道理には適っているから言うことは素直にきく。

「すいませんでした。」

「わかっているならいい。」

息を吸い込み教室全体をみて自己紹介を開始する。

「天満克己、高校男児、十五歳だ。漢字では「天満」と書くが、テンマンではなくテンマと読む。あだ名でも名前でも好きな風に呼んでくれ。以上だ。」

そしてすぐに耳を塞ぐ。

そのすぐ後……………

『キヤアアアアアアアアアッ！！！！！！』

「男よ！ホンモノよ！」

「カッコいいわあああ！」

確実に口クな学校生活になるとは思えなかった。

休み時間、授業を九割聞き流しているいろいろ考えていた。
すると……

「「ねえ（なあ）克己？（……………）」」

「なんだ？」

「「話があるんだけど（が）……………」」

話しかけてきたのは幼馴染二人だった……………

Kの始まり〜女難とフラグとIS学園〜（後書き）

今回かなり少な目………

次回まで待つてください。

今回は金髪お嬢様がです。

Eの始まりーあいさつと決闘ー（前書き）

久しぶりの投稿です。

頑張らなければ…

12 / 16 編集しました

Eの始まり／あいさつと決闘

どどもみんなの主人公天満克己だよ？
…すまない、ふざけすぎた。

いまおれは幼馴染みの一夏と箒と会話をしてきたところだ。
会話の断片を試みよう。

俺は屋上で、二人と会話を始めた。

「そういえば箒とはかなり久しぶりだな。」
「そうだねえ…とつても懐かしいね。」

箒は少し顔を赤らめて俺のほうを見る。

「そうだな…お前も…ずいぶんと…かつこよくなつたな…」
「おま…恥ずかしいこと言うなよ…」

俺の顔も少し赤くなる。

「なに二人でいい雰囲気醸してるの？」
「…すまない……………」

一夏が少し恐ろしい雰囲気をもっていたので腰を90°曲げて謝
っておいた。

「でも本当に変わったでしょ？」

「そうだな…克己はここまで表情豊かではなかったからな…」

「お前らナニツデンダ!？」

「くすくすくす」「くすくすくす」

* 箒は原作より性格が丸いです。

そんなこんなで会話は終わり、ISの理論の授業だが…

下らん。簡単な物理ではないか。

大学生の知識が残ってる俺には全く問題ないな。

それはそうとして…

「ちょっとよろしくて？」

さっきから声をかけてきているこの女、邪魔だ。

「聞いていらつしやいますの!」

思わずぶちつときた俺は悪くない。

「黙れ阿呆。俺の大切な時間を邪魔スンナばけえ!」

「な…なんですのその態度は!私を誰だかご存知ですの!？」

「しるかよ。興味ねえよ、しる価値ねえよ、そんな義務ねえよ、俺

は手前みたいな女と仲良くするためにこの学校に来てねえよ、そもそも誰？お前。ああやつぱりいいわ、お前みたいなタカビーと仲良くなつてもいいことなさそうだから。つーかとつとと去つて。邪魔、みんなの迷惑、公共の実害だから。」

「な……なんですって！？私をぶ」……」

キ~~~~ンコ~~~~ンカ~~~~ンコ~~~~ン

「ま、また来ますわ！逃げないことですわ！」

思わず言った俺は悪くない。

[illegible]

次の授業、隣の一夏からお許しが出たのでふて寝を決め込んでいたが……

「そういえばそろそろクラス対抗戦の代表者を決めなくてはな。」

きたよめんどいの。

「天満君を推薦します！」

「私毛！」

「私もそう思った!」

するとさっきの女が立ち上がり…

「納得がいきませんわ!」

面倒なことになったよ…

女のセリフをむしっていたが…

「こんな極東のサルを見世物にする価値などありませんわ!」

「うつせえなあ…」

「なんですの?」

「ギャーギャーピーピー騒ぐなら動物園行け。みんなの邪魔だ。何より…俺の邪魔だ。」

「くうっ!さっきから私をバカにするなんて…」

「お前が言い出したことだ。自分の発言には責任を持て。」

「うぬぬ…決闘ですわ!」

「はあ………かかってこいよ。相手くらいはしてやる。」

正直、ダルイが、なあ…

Eの始まり〜あいさつと決闘〜（後書き）

次〜〜〜回！IS ホンモノノチカラ は

「なんで克己がおんなじ部屋なの！」

「これが…エターナル…」

「踊りなさい！私とブルーティアーズの奏でるワルツで！」

「負けないでくれ…克己…」

第3話！「激闘の丁〜同室と力と決闘本番」

「独りの人間でもなあ、本当は誰かが支えてくれるんだよ！」

激闘の丁々同室と力と決闘本番（前書き）

大変遅くなりまして申し訳ない。

実は前回のセシリアさんいじりがとっても好評で、
今話も弄るぜ！

なんて思ってたらず想以上に納得いなくて…

ですので今回は決闘まで行きません！

ごめんなさい！

というわけで最新話、行きます！

激闘の丁々同室と力と決闘本番

前回のあらすじ

セシリア・オルコットなるタカビー女と口論した。

こんち~~~~主人公の天満克己だよ~~~~
ん？冒頭のあらすじはなんだ？って？

・・・まあ作者が

・・・~~~~~~~~手抜きつたつ~~~~
(メタるな！)

突然だが俺は今大変なことになっている。
話は今日の放課後までさかのぼる~~~~~

~~~~~放課後に~~~~~

「て…天満君！天満君！」

放課後になって教室でくつろいでいると山田先生が走ってきた。

「まだいたんですね…よかったあ……………」  
「なんのご用でしょうか山田先生。」

山田先生は嬉しそうにこう言った。

「実はですね、天満君の寮が決まりました!」

俺からしたらそれは悪魔の知らせだ。

「ですので鍵を渡しておきますね!」

鍵は1024号室だった。

「あの…一ついいですか?」

「はい!なんですか?」

「もしかして一人部屋では…「そんなはずはないだろう」…織斑先生…」

いつの間にか隣には織斑先生が立っていた。

「急きよ部屋割りを決めたんだ。女子と同室に決まっているだろう。」

「

そうですねえ……………」

そのあと部屋に行ったら一夏と同室で

「か…克己が同室なの!!!?」

なんて驚かれ、今に至る。

( (き……………気まずい……………) )

俺はいつ何を話せばいいのか戸惑っていた。

なにせ身も心も知りつくしあった仲だ。

ふつうなればそんな間柄なら何も気にはしなくてもいいはずだ。

しかし今は二人きり。

まして相手は女子。

俺は関心があまりないとはいえ、一夏のほうは必ず気にしてしまう。  
彼女はそういうことにとっても……………敏感だったんだ。

「あ…あのね…克己…」

「ん？」

「私…がんばったよ？」

「何をだ？」

「ガンバって…ここに合格したよ…」

「……………」

言葉を紡いでいく一夏はとても弱弱しく、儚い。

「私……………ここでも…姉さんの妹として…見られちゃうのかな……………」

「……………っ…!」

俺は一夏を抱きしめる。

そうせずにはいられない。

そうしなければならぬ。

彼女が壊れないように、

彼女がくずれないように、

俺はすべてを守らなければいけない。

「克己…優しいね…」

「べつに…そうじゃない…」

「私ね、怖かった。」

「ISに関わることが…か？」

「うん…」

「大丈夫だ。俺が守る。何があっても。」

「うん…」

まずは今回の決闘、絶対に負けない。

一夏を、大切な絆を、俺の心の依り代を護るために…

~~~~~決戦当日~~~~~

もうすぐ決闘が始まる。

今日が俺の立ち位置が決まる。

負けるわけには…

「いかねえんだよ…」

「どうした？克己。」

「いや、なんでもねえよ。」

「そうか、緊張はほぐしておくのだぞ。」

箒から励ましをもらい息をつく。

俺の腕にはガントレットがついている。これは俺のIS、『エターナル』だ。

自然と顔が強張る。

さてと…

「行ってくるぜ。」

「ああ。」

「無理しちゃいやだよ？ 克己。」

「わかっているさ。」

さあ…後悔させてやるぞ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3789x/>

IS ホンモノノチカラ

2012年1月12日20時49分発行